

参考までに授乳中に投与が可能かどうか表を示します。参考にしてください。

薬 剤	治療薬として用いられる疾患(関節リウマチ:RA、全身性エリテマトーデス:SLE、炎症性腸疾患:IBD)	授乳の可否 ○:使用可能 △:特定の場合、使用可能 ×:使用不可
プレドニゾロン (プレドニン)	RA、SLE、IBD	○:パルス治療中(短期間、集中的に大量投与する治療)以外は授乳可能である。
NSAIDs (ロキソニン、ボルタレン、ブルフェンなど)	RA、SLE	○
メトトレキサート (リウマトレックス)	RA	×:授乳不可
シクロスポリン (サンディミュン)	RA、SLE、IBD	○移行する薬物量は非常に少ないと考えられ、授乳は可能。
タクロリムス (プロGRAF)	RA、SLE、IBD	○移行する薬物量は非常に少ないと考えられ、授乳は可能。
レフルノミド (アラバ)	RA	×:授乳不可
アザチオプリン (イムラン)	RA、SLE、IBD	○:授乳は可能。児の血球減少や肝障害に注意する必要があるため医師に相談する。
サラゾスルファピリジン (サラゾピリン、アザルフィジン)	RA、IBD	△:児に血性下痢の報告があるが頻度は高くないため注意しながらの授乳は可能。
メルカプトプリン (ロイケリン)	IBD	○:授乳は許容できる。
メサラジン (ペンタサ、アサコール)	IBD	△:メサラジンの代謝産物が乳汁中に移行する。児に下痢を生じたという報告があるが、頻度は高くないため、児の状態に注意しながらの授乳は可能。

薬 剤		治療薬として用いられる疾患(関節リウマチ:RA、全身性エリテマトーデス:SLE、炎症性腸疾患:IBD)	授乳の可否 ○:使用可能 △:特定の場合、使用可能 ×:使用不可
TNF 阻害剤	インフリキシマブ (レミケード)	RA、IBD	○:授乳に関しては現時点ではまだデータが少ないが、これらの薬剤は、乳汁中へ移行しにくい。消化管からの吸収も悪く、新生児に抗体が移行する量は極めて微量であり授乳は許容される。
	エタネルセプト (エンブレル)	RA	
	アダリムマブ (ヒュミラ)	RA、IBD	
	ゴリムマブ (シンボニー)	RA、IBD	
	セルトリズマブ・ ペゴル (シムジア)	RA	
抗 IL-6 受容体抗 体	トシリズマブ (アクテムラ)	RA	△:授乳に関してはデータがない。
抗 IL- 12/23p40 モノクロー ナル抗体	ウステキヌマブ (ステララー)	CD	△:授乳に関してはデータがない。
CTLA4- IgG	アバタセプト (オレンシア)	RA	△:授乳に関してはデータがない。
ヤヌスキ ナーゼ (JAK)阻 害薬	トファシチニブ	RA、IBD	△:授乳に関してはデータがない。
	バリシチニブ	RA、IBD	
抗 BlyS 抗体	ベリムマブ	SLE	△:授乳に関してはデータがない。
ワルファリン (ワーファリン)		SLE	○:乳汁への移行は少なく授乳可能。
降圧薬	ACE 阻害剤	SLE	○:乳汁への移行は少なく授乳可能。
	ARB	SLE	△:乳汁へ移行しにくいと考えられ、授乳は許容できる。
	β 遮断薬	SLE	○:プロプラノロール(インデラル)は授乳について安全性が示されている。
	Ca 拮抗薬(アムロ ジン、ノルバスク、 ペルジピン、アダラ ートなど)	SLE	○:乳汁中への移行は少なく、授乳可能。

薬 剤		治療薬として用いられる疾患(関節リウマチ:RA、全身性エリテマトーデス:SLE、炎症性腸疾患:IBD)	授乳の可否 ○:使用可能 △:特定の場合、使用可能 ×:使用不可
ビスホスホネート	アレンドロン酸ナトリウム水和物	ステロイド骨粗鬆症	○:児への影響は低いと考えられるため授乳可能。

成人移行関節型 JIA の場合は RA の適応を参照